

特 別 活 動

1 特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現

特別活動の特質は、生徒同士の話し合い活動や、生徒が自主的・実践的に活動することにある。したがって、特別活動の各活動・学校行事の学習過程において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業や指導の工夫改善を行うことにより、質の高い学びを実現することが重要である。こうした質の高い学びを通して、生徒が各活動・学校行事で育成を目指す資質・能力を身に付け、高等学校卒業後も能動的に学び続けるようになるよう指導することが求められている。

(1) 特別活動における「主体的な学び」

「主体的な学び」の実現とは、学ぶことに興味・関心をもち、学校生活に起因する諸課題の改善・解消やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながらか、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取組である。

特別活動においては、ホームルームや学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見だし解決できるようにすることが大切である。例えば、自分たちの実態や自己の現状に即して、課題を見だしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるようにすることが大切である。

(2) 特別活動における「対話的な学び」

「対話的な学び」の実現とは、生徒相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えることを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていくことである。

特別活動は多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」を全ての活動において重視してきた。ホームルーム活動や生徒会活動の自治的な活動においては、ホームルームや学校における生活上の課題を見だし、解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げ、課題について多面的・多角的に考えたりすることが重要である。

また、対話的な学びは、ホームルームなど同一集団の生徒同士の話し合いにとどまるものではない。異年齢の児童生徒や障がいのある幼児児童生徒等、多様な他者と対話しながら協働することや地域の人との交流を通して自分の考えを広げたり、自分のよさや努力に気付き自己肯定感を高めたりするなど、感性や思考力、実践力を豊かにし、よりよい合意形成や意思決定ができるようになることも、特別活動における対話的な学びとして重要である。

(3) 特別活動における「深い学び」

「深い学び」の実現とは、学びの過程の中で、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見だし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深めることである。

特別活動における「深い学び」の実現には、特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切である。特別活動において重視する「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点のいずれについても各教科・科目等で育成する資質・能力と様々に関わっている。一連の実践過程で、各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科・科目で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切である。

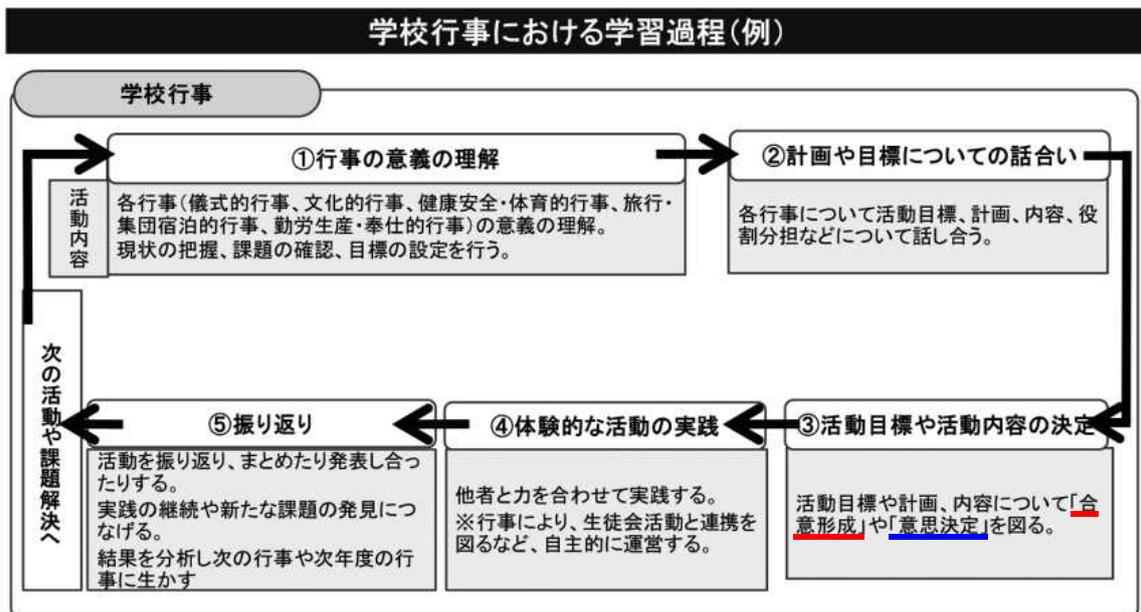
(4) 特別活動における主体的・対話的で深い学びの実現を図る際の配慮事項

特別活動において、主体的・対話的で深い学びの実現を図る際に重視すべきことは、課題を解決するために話し合い、合意形成を図る過程において、他者の考え方を認め、自他の考えをつなぎながら、新たなものを構成員全員で生み出していけるようにすることである。また、特定の生徒の発言によって結論が決まったり、同調圧力となったりしないように少数意見も大事にするなどの工夫をして、合意形成することが大切である。なお、話し合い活動では、合意形成を図るだけでなく、ホームルーム全員で役割を担い、決めたことが実践できるように、あらかじめ、各活動・学校行事の学習過程を綿密に構想した年間指導計画の作成が求められる。

2 学校行事における学習過程

特別活動は、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から構成されるが、ここでは、学校行事について説明する。

学校行事は、それぞれ異なる意義をもつ行事の総体であるため、育成される資質・能力や、その過程も様々である。学校行事の目標に掲げられている資質・能力は、「行事の意義の理解」、「計画や目標についての話し合い」、「活動目標や活動内容の決定」、「体験的な活動の実践」、「振り返り」といった実践も含めた全体の学習過程の中で育まれると言える。こうした学校行事の具体的な活動の過程は、例えば次のように表すことができる。



(高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編より)

3 学校行事の五つの種類

(1) 儀式的行事

ア 意義

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとすること

イ 育成を目指す資質・能力（例）

- ・厳粛な場における儀礼やマナー等の規律や気品ある行動の仕方
- ・厳粛で清新な気分を味わい、行事を節目としてこれまでの学校生活を振り返り、新たな生活への希望や意欲につなげようとする態度

【儀式的行事の内容】

入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、開校記念に関する儀式、離任式など

(2) 文化的行事

ア 意義

平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること

イ 育成を目指す資質・能力（例）

- ・他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、芸術的なものや伝統文化を鑑賞したりする活動に必要な知識や技能
- ・生涯にわたって、多様な文化芸術に親しむとともに、集団や社会の形成者として伝統文化の継承や新たな文化の創造に寄与しようとする態度

【文化的行事の内容】

生徒が各教科等における日頃の学習や活動の成果を総合的に発展させ、発表し合い互いに鑑賞する学校祭などの行事、外部の文化的な作品や催し物を鑑賞する音楽鑑賞会や講演会などの行事など

(3) 健康安全・体育的行事

ア 意義

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資すること

イ 育成を目指す資質・能力（例）

- ・心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守ることの意義の理解と必要な行動の仕方
- ・生涯にわたって、心身ともに健康で安全な生活を実践したりしようとする態度
- ・運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度

【健康安全・体育的行事の内容】

健康診断、薬物乱用防止指導、防犯指導、交通安全指導、避難訓練や防災訓練、体育祭、球技大会など

※上記の行事の中には、学校保健安全法や消防法の規定に従って実施されるものもあるが、いずれも学校教育の内容として取り上げる以上、それぞれのねらいを明らか

にし、教育的な価値を十分に生かすように配慮することが大切である。

(4) 旅行・集団宿泊的行事

ア 意義

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること

イ 育成を目指す資質・能力（例）

- ・豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義の理解、校外における集団生活の在り方や社会生活上のルール、公衆道徳などについての理解及び必要な行動の仕方
- ・日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化・社会に親しみ、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとする態度

【旅行・集団宿泊的行事の内容】

遠足、修学旅行、集団宿泊、野外活動など

(5) 勤労生産・奉仕的行事

ア 意義

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験活動などの勤労観・職業観の形成や進路の選択決定などに関する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験を得られるようにすること

イ 育成を目指す資質・能力（例）

- ・勤労の意義と尊さ、社会的・職業的な自立についての理解と、ボランティア活動などの体験活動の仕方についての必要な知識及び技能
- ・進んで勤労生産や奉仕に関わる活動に積極的に取り組み、人間としての在り方生き方に関する自覚を深めたり、勤労観や職業観を醸成したりして、社会に貢献しようとする態度

【勤労生産・奉仕的行事の具体例】

就業体験活動、上級学校や職場の訪問・見学、地域社会への協力、学校内外のボランティア活動など

4 実践事例

学校行事は、ホームルーム経営に必要な信頼関係やよりよい人間関係を構築するために、重要な機能を担っており、学校行事を充実させるためには、ホームルーム活動において提案や取組の在り方などを話し合い、**合意形成**を行うことが必要である。

学校行事は、「行事の意義の理解」、「計画や目標についての話し合い」、「活動目標や活動内容の決定」、「体験的な活動の実践」、「振り返り」という全体の学習過程の中で育まれる。そのため、ホームルーム経営の充実を図り、生徒が自他のよさや個性を尊重しつつ、互いに高め合うようなホームルームづくりを進めていくことが望まれる。

本手引では、ホームルーム活動と学校行事を相互に関連付けた事例として、「勤労生産・奉仕的行事」における個人の「**意思決定**」に焦点を当てた事例と、「文化的行事」にお

ける集団の「合意形成」に焦点を当てた事例の2つを示す。

(1) ボランティア活動（対象：第2学年）

① 単元名（勤労生産・奉仕の行事）

地域の問題を解決するためのボランティア活動を実践しよう

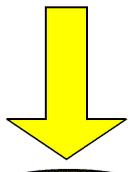
② 目標

地域の問題の解決に向けて奉仕に関わる活動に積極的に取り組み、地域社会のために何ができるかを考えながら、地域社会に貢献しようとする態度を養う。

③ 一連の活動と評価

時間	議題 ○学習活動	目指す生徒の姿			学習過程
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
ホームルーム活動	「地域の問題解決に向けたボランティア活動について」 ○地域住民との交流を通して明らかになった地域の問題を解決するために、自分たちができることについて意見交換する。	ボランティア活動等の体験活動の仕方を身に付けている。			行事の意義の理解
<p>《指導のポイント》</p> <p>その場限りの体験的な活動で終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒が十分に理解できるようにし、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることができるようにする。 →本事例では、前時に地域住民との交流会を実施し、事前に地域の課題について、明確化を図った。</p>					
ホームルーム活動	「ボランティア活動の計画」 ○意見交換を踏まえ、活動内容を検討する。 ○活動ごとにグループに分かれ、活動のねらいや役割分担を明確にして、活動計画を作成する。 ○個人目標を設定する（ 意思決定 ）。 ○必要に応じて、訪問先の担当者と打合せを行う。		実践する活動において自分が果たすべき役割について考え、個人目標を明確にしている。	見通しをもってボランティア活動に取り組もうとしている。	計画や目標についての話し合い
<p>《指導のポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 他から与えられた計画に従わせるだけでは活動意欲を失わせることになるため、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるように指導する。 ■ 一部の生徒のみの活動にならないように、また、活動のねらいが生徒に十分理解されるように、ホームルームでの話し合いを充実させたり、役割を明確にした活動計画を立てたりする。 →本事例では、個人目標を設定し、一人一人の生徒が目的を意識して活動に取り組めるようにした。 					
<p>活動内容の決定</p> <p>活動目標や活動</p>					

ボランティア活動	<p>「計画の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動計画を基に、活動のねらいや役割分担、個人目標等を確認する。 ○活動計画に沿って活動を実施する。 		<p>他者と協力してボランティア活動を実践しながら、地域の問題を解決することを考えている。</p>	<p>積極的にボランティア活動に取り組み、地域社会に貢献しようとしている。</p>	<p>体験的な活動の実践</p>
<p>《指導のポイント》</p> <p>学校外におけるボランティア活動などの実施に当たっては、生徒の心身の発達の段階や適性等を考慮して計画し、実施する。その際、生徒の安全に対する配慮を十分に行うことに留意する。</p> <p>→本事例では、地域の課題として、少子高齢化問題を取り上げ、地域の福祉施設や社会教育施設、保育所等での様々なボランティア活動を実施した。幼児や高齢者と交流したり、地域の大人と協働したりする活動を実施するに当たっては、教職員全体の共通理解と適切な指導の下に、家庭や地域との連携・協力を十分に図りながら、生徒の自主的、自発的な活動が助長されるよう配慮した。</p>					
ホームルーム活動	<p>「地域の問題解決に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の振り返りを行い、活動を通して得た気づきを共有する。 ○地域の問題解決に向けて、今後の自分たちの取組を明確にする。 	<p>今後取り組むボランティア活動等の体験活動の仕方を身に付けている。</p>		<p>ボランティア活動を通して自己有用感を高め、地域社会に貢献しようとしている。</p>	<p>振り返り</p>
<p>《指導のポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 振り返りについては、ループリックによる評価表を用いて自己評価することにより、生徒が自分の取組を振り返り、そこで得た気づきを次の学校行事等へ生かすことができる。 (参考資料：生徒に身に付けさせたい資質・能力の評価表) ■ 振り返りの項目については、アンケート作成ツール等を用いて作成することも考えられる。 (参考資料：学校行事のループリック評価（振り返り）について) 					



(2) 学校祭（対象：全学年）

① 単元名（文化的行事）

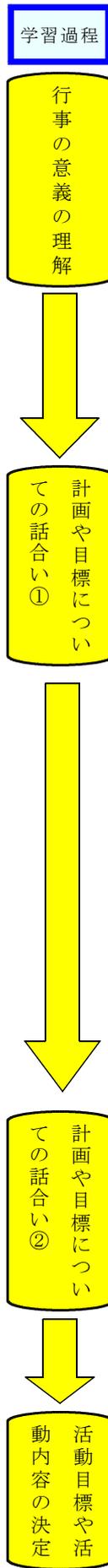
学校祭のクラス発表の内容を決定し、協力してクラス発表を成功させよう

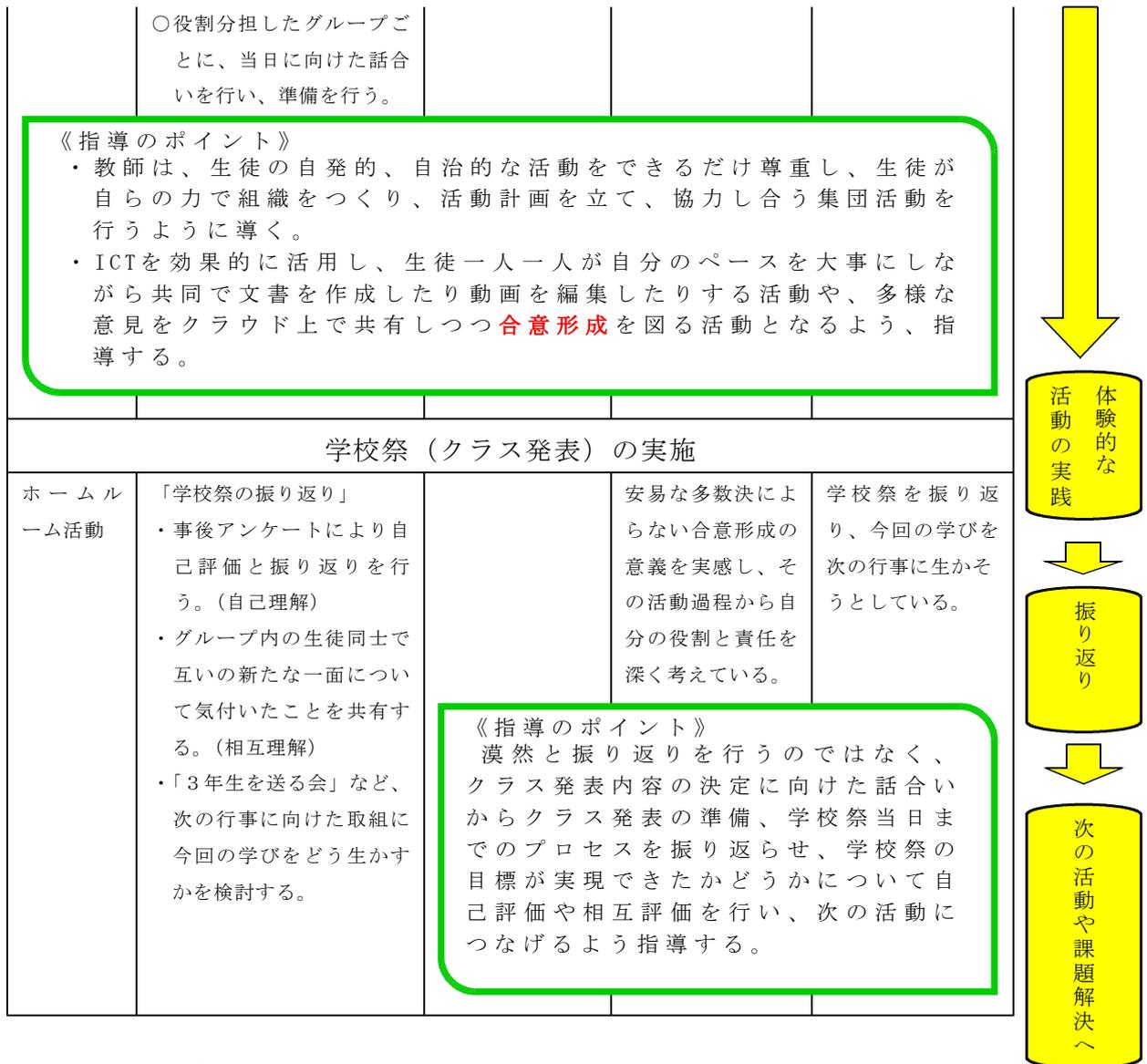
② 目標

- ・課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。（ホームルーム活動）
- ・他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたもの、芸術的なものや地域や我が国の伝統文化に触れたりして、自他の個性を認め、互いに高め合うことができるようにする。（学校行事）

ウ 一連の活動と内容

時間	議題 ○学習活動・留意事項	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動	<p>「学校祭のクラス発表の内容について」</p> <p>○クラス発表のテーマを設定し、テーマに沿って意見を出し合い、クラス発表の内容を考える（グループ活動）。</p> <p>・各教科等における話し合い活動の経験を生かし、安易な多数決によらない合意形成を目指すことをクラス全体で共有する。</p> <p>・ICT（Google Forms）を活用し、全ての生徒の意見を吸い上げることで、少数意見にも着目させる。</p>	学校祭のホームルーム活動の意義を考え、学校祭が生徒主体の活動であることを理解している。		一人一人の意見や考え方のよさを認め合い、活動計画を立てようとしている。
<p>「合意形成」に係る教科における取扱い</p> <p>■ <u>国語「現代の国語」の内容「話すこと・聞くこと」の指導事項</u> 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。</p> <p>【話し合いの目的の例】 発想を出し合う、感想や反省の交流、理解を深める、意思決定、合意形成など</p> <p>■ <u>英語「ディベート・ディスカッションⅡ」の目標「話すこと（[やり取り]）」</u> 社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、課題の解決策などについて合意形成することができるよう、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p>				
ホームルーム活動	<p>「意見の取りまとめ」</p> <p>○テキストマイニングにて、回答の傾向を見取る。</p> <p>○回答の傾向を踏まえ、各グループ案のよさと課題を出し合う。</p> <p>○1つのグループ案を選択するのではなく、各グループ案のよさを組み合わせて合意形成を図り、クラス発表を決める。。</p> <p>○合意形成したクラス発表について、どのような役割が必要か整理する。</p>		他者の考えのよさを受け入れながら、安易な多数決によらない 合意形成 に貢献している。	





【参考となる資料】

●学校文化を創る特別活動【中学校・高等学校編】

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j-h_leafb_1.pdf

●ICT活用「いつでも研修」プログラム

「12 Googleフォームでアンケートを作成し、AIテキストマイニングを使用してみよう」

http://www.ictkensyu.hokkaido-c.ed.jp/minken/gen/try2/siryou/12_siryou.pdf

●学校文化を創る特別活動 高校編

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_hig_h3008-col.pdf

●「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 特別活動

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_tokubetsuk.pdf

●特別活動の指導におけるICTの活用について

https://www.mext.go.jp/content/20201028-mxt_jogai01-000010146_013.pdf

Topic

国際交流の推進

道教委では、渡航せずとも異文化交流や国際体験ができるよう、道立高等学校等の生徒を対象に、道内大学の留学生との交流、高校生等の道内大学への派遣、ICTを活用した海外の学校との交流を推進しています。

外国での生活経験をもつ人や国際貢献を担う人々の体験談などを聞いて話し合ったり、留学生をはじめとする外国の人々との意見交換や交流会を実施したりするするなど、国際理解や国際交流の在り方についての考えを深める機会を提供しています。

◇ 高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」

本事業は平成30年度から実施され、「道立高等学校等の生徒の道内大学への派遣」と「留学生の道立高等学校への派遣」の2つのプログラムから成り立っています。

留学生の道立高等学校への派遣の概要（平成30年～令和4年）	
期 間	9月 連続する3日間以内（令和3年度はオンライン実施）
実施校	42校（延べ73校）
留学生	87名（中国28名、インド10名、インドネシア6名、ミャンマー5名、アメリカ3名、韓国3名、タイ3名、バングラディッシュ3名、アラブ首長国連邦2名、ケニア2名、他 ネパール、ドイツ、パキスタン、ガーナ、パプアニューギニアなど）
内 容	自己紹介、母国紹介、大学生生活の紹介、大学での研究紹介、教員の授業サポート、課外活動参加、留学生の家族とのオンライン交流 など
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の母国について理解を深めることができた。 ・英語に加えて日本語も堪能な留学生と交流して、海外で活躍したいという意欲を高めることができた。 ・留学生の学びを知り、海外への進学を含めて将来の進路を考える機会になった。



【自己紹介・母国紹介】



【課外活動への参加】

◇ ICTを活用した海外の学校との交流

道教委は、ウェブ会議ソフトウェア等を活用して海外の高校等との交流を希望する道立高等学校等を募集し、多くの学校がオンラインで交流を開始しています。今後も、新たな国・地域との交流について検討を進めており、随時、募集する予定です。

相手国・地域	主な実施内容（令和4年度）
【令和4年度】 ニュージーランド、アメリカ（マサチューセッツ州・ハワイ州）、カナダ（アルバータ州）、ブラジル、オーストラリア（ビクトリア州・タスマニア州）、フィンランド、中国（北京市）、シンガポール、パラグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・「運転免許を18歳以下で取得可能にしてもよいか」などのテーマに基づくディベート ・リアルタイムの交流に加え、クラウドサービスを利用したメッセージ動画の交換 ・自国の文化や学校生活についてクイズ形式で紹介 ・見学旅行の様子をプレゼンテーション



【ニュージーランドとの交流】

教科・科目等とホームルーム活動の内容項目「国際理解と国際交流の推進」を相互に関連付けて指導計画を作成するなど、教育課程上の位置付けを適切に行った上で、意見交換や交流会などを実施することなどが考えられます。

◇ 国際交流の取組と高等学校学習指導要領との関連（特別活動に係る内容を一部抜粋）

高等学校学習指導要領 第5章 特別活動 第2 各活動・学校行事の目標及び内容
 【ホームルーム活動】2 (2) ウ 国際理解と国際交流の推進

我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探求しようとする。

ホームルーム活動では、各教科・科目等の中で学習した知識等を基盤として、国際社会に関する認識を深め、国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方生き方を探求し、国際協調と豊かな国際交流、国際貢献の在り方を考えていくことが必要です。

【参考となる資料】北海道教育庁学校教育局高校教育課国際交流係「国際交流ポータルサイト」

<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/a0008/intl/top.html>

